

## 事業名：つなぐアートつながるアートプロジェクト



提案者：アートグループ majo+

相手方：障がい者支援 G、教育研究 G、文化創造 G

観光・地域ブランド G、社会教育 G、市民協働 G

提案型：市民提案

協働の形態：共催

事業費：行政 275,527円、市民 6,000円

### ● 事業の目的 ●

すべての子どもたち（大人たち）が創造する喜びと楽しさを味わえる「アートの生まれる街 亀山」をアールブリュットの視点から具現化し、ダイバーシティの実現を目指す。亀山市民に、アールブリュットの魅力を発信すると共に、アールブリュットの活動に賛同・参加を希望する障がいのある方や子どもたち、不登校の子どもたちが、将来を見据えて長く活動できる仕組みづくり、拠点（プラットフォーム）づくりを考える。

### ● 事業の内容 ●

○障がいのある人や子どもたちへのワークショップ開催…3回

○不登校の子どもたちへのワークショップ開催…1回

○特別支援学級へのワークショップ開催…4回

○先進地視察：やまなみ工房（滋賀県甲賀市）・ボードレス・アートミュージアム NO-MA（滋賀県近江八幡市）

○「つなぐアートつながるアート」の取組報告

やまなみ工房 施設長 山下完和さんによる講演会

タイトル「すべては幸せを感じるために～やまなみ物語～」

○事業周知のためのリーフレットの作成 2,000部

### ● 市民の役割 ●

リーフレットデザイン・発注・配布

ワークショップの実施

報告会の資料作成、報告発表

### ● 行政の役割 ●

先進地視察の調整等

ワークショップ募集及び日程調整

ワークショップの運営補助

報告会の実施調整等

### ● 事業の成果 ●

（団体）

アートグループ majo+が様々な場所で多くの子どもたちや大人たちとワークショップを開催したことは、私たちの活動を周知してもらうことができ、かつ体験者に喜んでいただけました。活動や報告会を通じて、亀山に「アールブリュット」の意義を知ってもらえ、多くの人の共感を得ることができました。

（行政）

協議の段階ではワークショップの希望があるか懸念していましたが、想定以上の学校及び事業所からの希望があり、障害のある方や不登校の子どもたちが、アートを通じて自己表現し、他者とつながる場を多数提供することができました。本事業により、参加者の自己肯定感や社会的な関わりの機会が広がり、福祉や教育の現場でも新たな可能性を見出すことができました。

## ● 協働の効果 ●

(団体)

今回の事業を実施してみて、各現場がこのようなワークショップの継続的な開催を望まれていることを実感しました。単年度で終わることなく、続けていけるシステム作りをしたいです。各部署の担当者に創造することの喜びが人生の豊かさにつながっていることを実感していただけたと思います。行政と市民のコラボレーションがこれからの施策のポイントになるのではないのでしょうか。

(行政)

本協働事業では、障害のある方や不登校の子どもたちなど、行政だけでは届きにくい層への支援を、市民団体の専門性や柔軟な発想を活かすことで、効果的に実施することができました。

複数部署が連携することで、福祉・教育・生涯学習などの分野を超えた対応が可能となり、庁内の連携強化にもつながりました。

## ● 協働事業評価 ●

○評価基準…大変よくできた(5点)よくできた(4点)できた(3点)あまりできなかった(2点)全くできなかった(1点)

評価の視点	行政	団体
事業目的を共有することができましたか。	4	4
役割分担や責任を明確にすることができましたか。	4	4
相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	5	4
互いの自主性・自立性を尊重し、対等な関係で事業を実施できましたか。	4	5
互いの持つ情報等を共有することができましたか。	4	4
事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	4	4
合計点	50/60	

## 活動の様子

